

問合先 市民課国保年金班
 ☎ 32・3032
 税務課市民国保税班
 ☎ 43・7505

また、市では生活習慣の見直しによる健康管理を図るため、下記のとおり特定保健指導をすすめています。

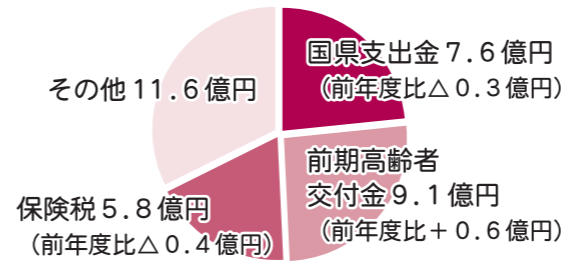
「重複検診」「頻回検診」を減らすことも医療費の削減につながります。

◆ジェネリック医薬品を活用しましょう
 皆さまの家計への負担を軽減するだけでなく、保険給付費の削減効果も非常に高いです。

◆毎年、健診を受けましょう
 毎年きちんと受診し、健康管理に努めることで、医療の長期化・重症化を阻止し、医療費の高額化を防ぎます。

国保財政の安定化に向けて
 国保財政を安定的に運営していくために、医療費適正化への取り組みが重要です。医療費削減については、皆さまのご協力が不可欠です。

【歳入計 34.1 億円（前年比△0.4 億円）】



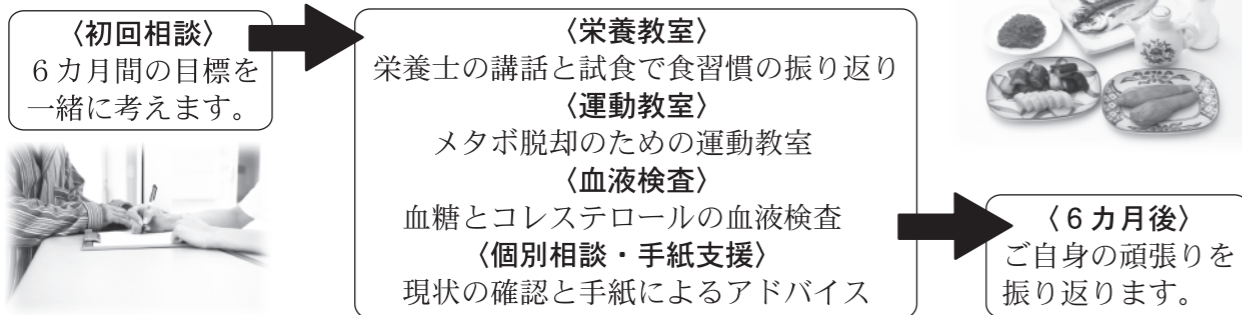
国保を支える財源・減少する国保税と膨らむ赤字
 国保の歳入は国保加入者からの保険税、国県支出金、前期高齢者交付金が主なもので、歳入全体の66%を占めています。しかし、加入者の減少や所得の減少による国保税の減収、国庫支出金の減少などで、医療費の伸びに反して、減少の傾向にあります。その中でも前期高齢者交付金は、65歳から74歳までの加入者が多い国保を支えるために、会社員等が加入する他の健康保険からの財政支援です。平成26年度では9億1千万円の収入となっており、国保最大の財源となっています。

特定保健指導のすすめ

にかほ市では、特定健診の結果、メタボリックシンドロームと判定された方を対象に「ワザあり☆スマート教室（特定保健指導）」を行っています。

皆さんもご存じのとおり、メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型肥満に、脂質異常、高血糖、高血圧などを重ね持った状態をいいます。これらの危険因子が重なるほど、脳卒中、心筋梗塞などの深刻な病気に発展するリスクが高まります。だからこそ、食習慣、運動習慣を中心とした生活習慣の見直しが必要になります。1人ではなかなか難しいため、市の保健師、栄養士が皆さんと二人三脚でメタボ脱却を目指します。

ワザあり☆スマート教室の流れ



初回相談、個別相談などは基本的に保健師と1対1で行いますが、栄養教室や運動教室などは同じ悩みをもつ方々が集まり、一緒に学ぶ時間です。初回相談の時に食習慣、運動週間について、それぞれ改善目標を立て、半年間かけてメタボ脱却を目指します。

参加者からの実際の声（栄養教室を通してさまざまな感想や気づき）

薄味で物足りない感じだけど、野菜の味がよく分かる。おいしかった！

教室に参加することによって、健康に対する意識がかなり変化したと思う。

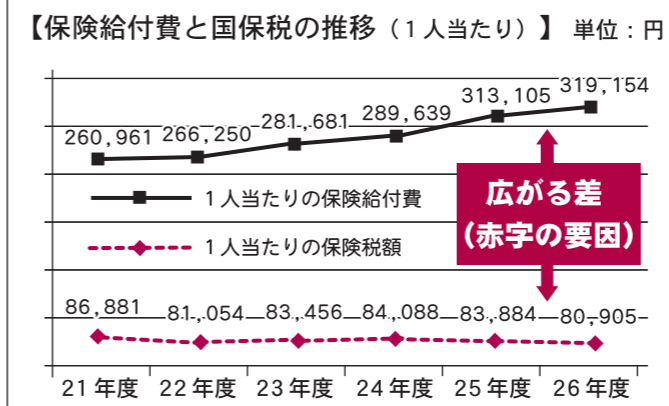
家の味付けが倍くらい濃いことに気づいた。また、自宅での野菜量が少ない。

問合先 健康推進課 ☎ 32 - 3000

このように、国保財政は保険税のほかにさまざまな財政支援を受けて運営されているのです。しかし、事業単年度収支は平成22年度から赤字が続き、平成26年度決算では1億1千5百万円の赤字となりました。これにより、それまで積み立てていた基金も一部取り崩して赤字を補っています。

保険給付と国保税の推移
 にかほ市の国保税については合併以後、税率統一のため平成20年度に見直しをして以来、景気低迷や加入者の負担抑制のため、税率を据え置いてきました。市の国保税の状況は、1人当たりの課税標準額医療分（税額の基礎となる金額）が県内で2番目に高いのに対して、1人当たりの国保税は県内25市町村の中で24番目となっています。このことは、「所得は多いが、税額の負担は少ない」とつまり税率が非常に低い、ということを示しています。

現在の医療費給付の状況を国保税との関係から考えると、下図からも分かる通り、1人当たりの医療費給付額と国保税額



との差が年々広がっています。この差を埋めるために、繰越金や基金を充ててきましたが、すでに限界となつています。歳出（保険給付費等）と歳入（国保税等）のバランスが保たれていない間は、税率が低くても問題がありませんが、赤字が続く、なおかつ赤字額も年々増加していく現状では、健全かつ安定的に運営されているとは言い難く、非常に厳しい財政状況が続いています。

健全な国保財政の検討は喫緊の課題であります。

減る国保税と膨らむ赤字

保険料給付費は年々増大していますが、国保税は減収し、その差は広がる一方です。

国保に加入していない方からも支えられている国保ですが、年々赤字額が増大している状況です。

